

ウシガエル (*Rana catesbiana*) に寄生する鈎頭虫 (Acanthocephala) の幼虫について

奥田義雄 (神戸大・文理)

最近各地に繁殖している食用蛙 (*Rana catesbiana*) に *Southwellina* の被囊幼虫を発見したのでその所見を報告する。*Southwellina* は鳥類に寄生するもので、*S. hispida* (van Cleave 1925) Witenberg, 1932 がゴキサギを宿主として我國及び北米から報告されている。

1. 被囊幼虫は膀胱及腸間膜・小腸に見出される。

2. 本幼虫の發育程度は次のようである。

體長×體幅: ♂ 4.32-4.80×1.00-1.12 mm ♀ 4.40-4.80×1.04-1.14 mm

全形: 紡錘形

吻長×吻幅: 0.60-0.70×0.46-0.65 mm

吻形: 紡錘形

頸長×頸幅: 0.44-0.50×0.50-0.74 mm

睾丸縦×横: 0.14-0.16×0.10-0.15 mm

形は橢圓形で體の $\frac{2}{5}$ に相前後して二個ある。

3. 鈎列 16-20 列 各列 16-18 個

鈎の先は鋭く尖り 24-47 μ 背腹で大きさに差はない。頸では 16-18 列各列 6-9 個で稍細くて短かい。

カキに附着の無被ヒドロ虫に就いて 山田眞弓(北大理・動)

昭和 24 年春及び 25 年春の 2 度に亘り尾道臨海實驗所の門氏よりカキに附着せるヒドロ虫の一種の標本を送られた。このカキは尾道附近より採取された養殖せるマガキで、その外套内の唇辨より鰓にわたつて、多數のヒドロ虫が附着していた。検査の結果は Bougainvilliidae ウミヒドラ科に屬する新しい種類と考えられた。體のカキには多數の個體が附着しているが、極めて特異なことは群體を形成していないことである。ポリプの高さは 1.4-2.6 mm. ヒドロ花、ヒドロ莖の明確な區別はなく、下部に向い次第に細まる。上端には 15-20. 本の糸狀の短い觸手がある。下端は圓盤狀の小さな足盤に終つてゐる。與えられた標本は總て未熟のものであつて生殖體は見られず、水母を生ずるや否や不明である。又個體中には體の中部に小さな芽體を有するものがあるが之は無性的なものであらうと思う。筆者は本種に *Ostreohydra japonica* なる名を與えた。

カマキリ寄生ハリガネムシ追加一新種並びに *Chordodes* 属の國內國外分布について

井上 巖(東京學藝大・大泉分校)

I. *Chordodes fukuii* n. sp. ♂ 5, ♀ 11. クチクラ: 突起三種。1. 第 1 種乳頭。クチクラ断面では圓錐台狀 (高 4~12 μ , 13 頭 130 個平均 7 μ)。表面觀一橢圓形 (頂部長徑 3~9 μ , 13 頭 130 平均 6 μ ; 基部同 5~12 μ , 13 頭 130 平均 8 μ)。頂部縁邊に 1~3 μ 長の細毛不定數生ず。2~37 個が集り (16 頭 200 群平均 11) 不規則群を作り、各群はクチクラ上に散在。2. 第 2 種乳頭。前種乳頭間を埋めて生ず。断面一低丘狀 (高 1~5 μ , 13 頭 65 平均 2 μ) 1~3 μ 長の細毛疎生。表面觀一橢圓, 角の圓い長多角形 (長徑 10~20 μ , 11 頭 110 平均 13 μ) (乳頭の低い場合表面觀では區劃の明かでない個體あり)。3. 指狀突起。乳頭間に單立散在。長 6~10 μ , 基部徑 2~3 μ 。棘狀大形突起なし。宿主大カマキリ *T. sin. S.*, チョウセンカマキリ *T. ang. S.?* (古川博士御同定)。

II. 分布 1. 國內 *Ch. japonensis* Inoue 栃木・埼玉・千葉・東京・山梨・愛知・奈良・*Ch. fukuii* n. sp. 秋田・栃木・山梨 (本州以外の材料は入手なし) 2. 本属既知 68 種の分布。熱帯・亞熱帯を中心に分布するを圖示。北限サラトウ, 南限シドニー。

キリギリスに寄生する藻虫について 津川兵馬(山口大・教育・光分校)

山口縣光市及び縣下各地より採集されたキリギリスには 2 種の *Gregarina* が寄生する。その内の *Gregarina concava* につき形態的特徴、生活史及び孢子形成についての報告である。スポロントは 2 個體シジ